

未来像のストーリーづくり

ポイントの振り返り	未来像で描きたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心に暮らす ・地域で豊かに暮らす ・未来を創る 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までどおりの暮らしを見直す ・未来を創る人が育つ ・持続可能な地域

未来像のフレーズ出し

<p>安全・安心</p>	<p>今まで通りはNG 本当に必要なことを見極める機能</p>	<p>まちの中の緑が増え、クラスターの課題が少なくなっている。</p>	<p>市民力活用 最大化 事業の最小化</p>	<p>ごみ排出</p>	<p>今必要なことを 情報公開する</p>	<p>必要なものを 必要な分だけ</p>		
<p>地域</p>	<p>・空き家が地域の中心的なスペースとして生まれ変わり 空家などを利用し、計画的に緑地や公園ができ地域の人が集まれ、子どもたちが遊べる場がたくさんある。</p>	<p>・教育施設の更新事業 シニアが学校で授業をする</p>	<p>市民のもつノウハウの継承 何かを学ぼうとしたら、十分な情報やその場があるまち 町人 上級学校とのつながり</p>	<p>現役世代の地域との関わり マチ 異分野(部局)間が連携し、課題を統合的に取り組んでいる。</p>	<p>行政と市民の「協働」 ↓ 市民協働 市民・企業 大学・団体の連携 市民・団体・市 役割の最適化</p>	<p>市と市民と民間の協働 ヒト 世代を超えた活発な交流</p>	<p>人がすむまち。静かに豊かに暮らす。</p>	<p>・公民館やコミセン事業の統合 全員が関心を示す流れを作る</p>
<p>未来</p>	<p>町 観光都市 or (and) 居住都市 1人ひとりの幸せ度最大化 1人ひとりの力が最大化するコミュニティ</p>	<p>マチ SDGsを政策に取り込んだ持続可能な政策が実行されている。</p>	<p>町人 “茅産茅消”の食事 農地が確保され、地場産のものが供給され、水田も残っていてお米は、小・中学校の給食に供給されている。</p>	<p>全員がMY畑を持っている 自然をいつまでも大切に</p>	<p>まちのTV見える化 子どもが生まれても育てやすい環境、保育園は充実し保育士さんの地位も向上している。</p>	<p>町人 里山地域の活用 北部のコア地域は、保全され、斜面林は寄付され、市民・地域の人が保管理している。そこが市民の憩いの場になっている。生物多様性が保たれている。</p>	<p>市に関心を持ち、市民同士が議論する場が確保され、市民が行政に主体的に参加している 市役所職員の副業、越境学習</p>	<p>この人がいるから行きたい茅ヶ崎</p>

未来の茅ヶ崎市での暮らし(ショートストーリー)

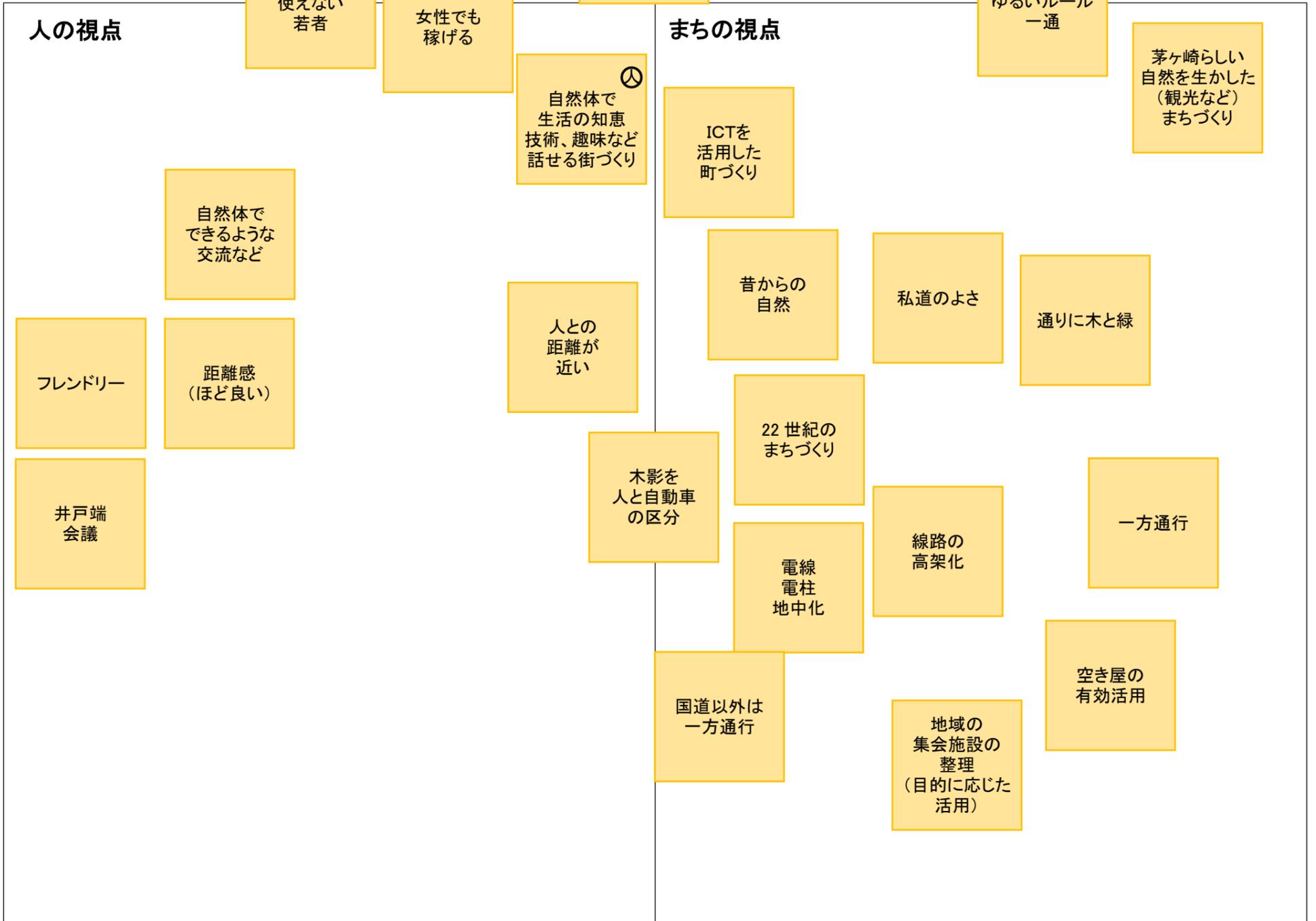
2050年頃 40代子ども2人夫婦は、朝タブレット端末にきた情報をチェックし、地域の課題について意見を発信。子どもは学校に行き、祖父母も学校で教えたり、企業や市民の交流の場として機能している。いろいろな人が交流でき、意見を言え、未来について考えることで持続可能な茅ヶ崎になる。

Aグループのショートストーリーですが、2050年頃の40代夫婦と子ども2人という家庭を設定して考えました。「2050年頃、40代の子どもが2人夫婦は、朝タブレット端末にきた情報をチェックし、地域の課題について意見を発信。子どもは学校に行き、祖父母も学校で教えたり、企業や市民の交流の場として機能している。いろいろな人が交流でき、意見を言え、未来について考えることで持続可能な茅ヶ崎になる」このようなショートストーリーを考えました。まず、前回の第2回のポイントとして、安全・安心に暮らす、地域で豊かに暮らす、未来を創るという3本の柱を軸に未来像で描きたいことを考え、安全・安心に暮らすというところから、「今までどおりの暮らしを見直すこと」「地域で豊かに暮らすというところから、未来を創る人が育つということ」「未来を創るという柱から、持続可能な地域をつくるということ」の3つを未来像で描きたいこととして考え、それらをショートストーリーに反映させました。「朝タブレット端末にきた情報をチェックし・・・」ということなのですが、2050年頃ということで今よりもさらにデジタルな技術が発達していると考え、朝タブレット端末で、デジタルで交流できる場をコミュニティとしてつくり、市役所などから「こういうことがありますよ」という情報を発信したり、市民レベルから「こういうイベントをやったり、こういうことで困っているので誰か助けてくれませんか」と投げかけたりするような、官民が双方で意見を自由に言い合えるような場を提供し、尚且つそれを実際にできる場として学校を使うということを考えました。今より子どもが減ってきている分、学校の空いたスペースを子どもだけで使う場ではなく、子どもや大人、リタイヤした祖父母世代、企業、市役所の方も一緒に交流できる場として使えるようにし、学校施設のスペースを複合施設として利用することを考えました。例えば、子どもたちが学校で学んでいるところに、祖父母世代が学習サポートとして子どもたちに教えたり、逆に祖父母世代が子どもたちと交流することで活力をもらったり。あるいは、企業や市役所の方が実際に来て市民たちと交流する場を築くことによって、新しい発見をつくったりできるのではないかと考えました。全ての軸として共通することが、世代や仕事、いろいろな生活の場の垣根を越えて、一つの茅ヶ崎市民として出会える場をつくり出すということをテーマに考えました。以上です。ありがとうございました。

未来像のストーリーづくり

ポイントの振り返り	未来像で描きたいこと
<p>・古き良きを残す！！</p> <p>・将来への投資(子どもへ)</p> <p>・人生 100 年への備え(シニアへ)</p> <p>・茅ヶ崎のインフラ整備(ソフト・ハード)</p>	<p>①将来への投資 ②人生 100 年への備え</p> <p>③茅ヶ崎のインフラ整備を行うことで、古き良き茅ヶ崎を残していく。</p>

未来像のフレーズ出し



未来の茅ヶ崎市での暮らし(ショートストーリー)

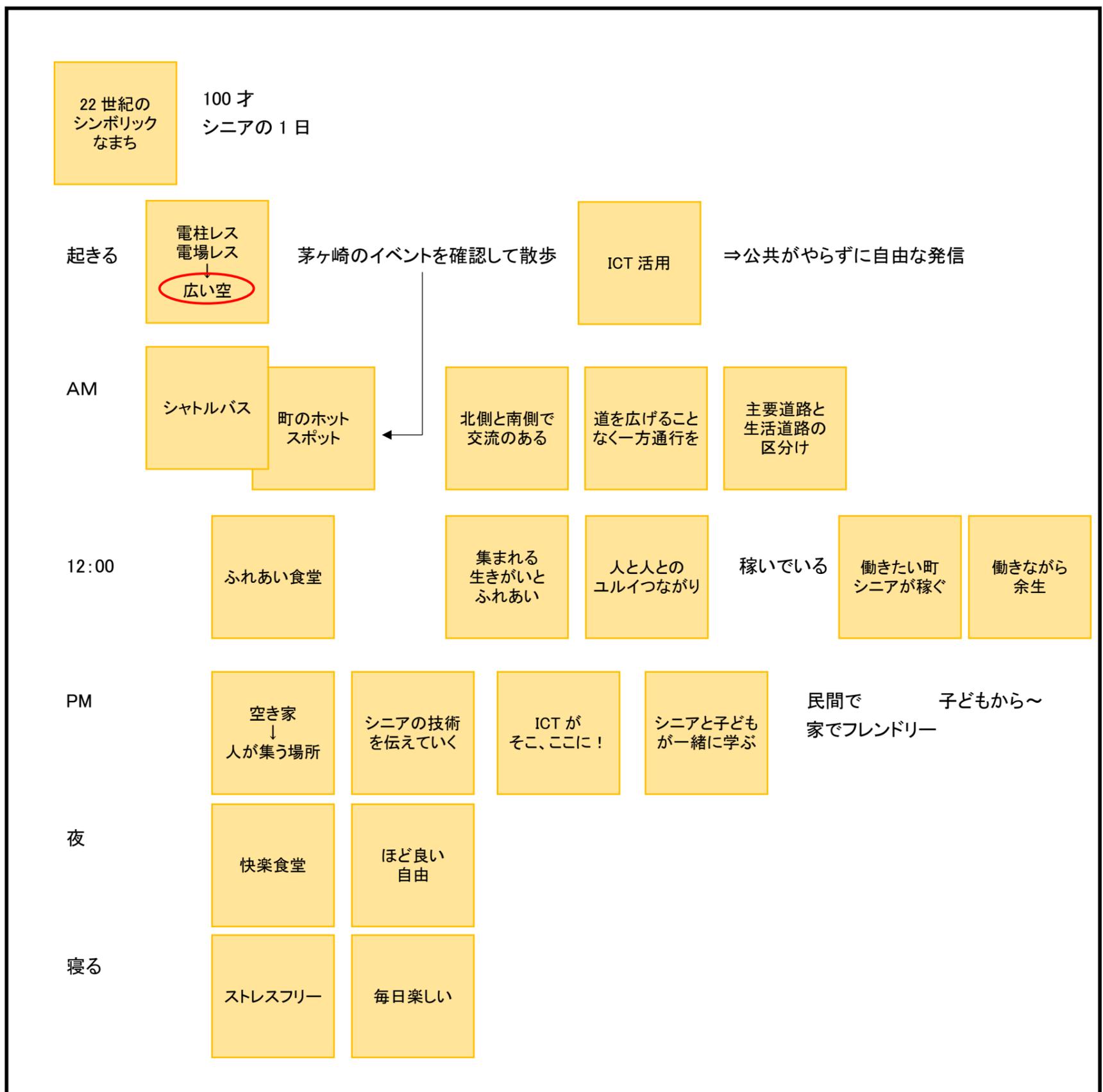
22世紀の茅ヶ崎シニアの1日

朝 5:00	自宅のICT情報をチェック
AM	シャトルバスで海岸まで(北から南へ)
正午	ふれあい食堂では知り合いの店でお金を使う→人が動くことでお金と知識が循環！→せまい道を安心しててくてく歩いて行く(一方通行)。
PM	民家でシニアが子供に伝える→シニアは稼ぎ子供は学ぶ→子供を持つ親が引っ越してくる！
夜	快樂食堂で勉強(ICT情報)→シニアのスキルUP
寝る	翌日の情報をチェック
	毎日楽しい(平日)大人が()ろろしている街 交流する

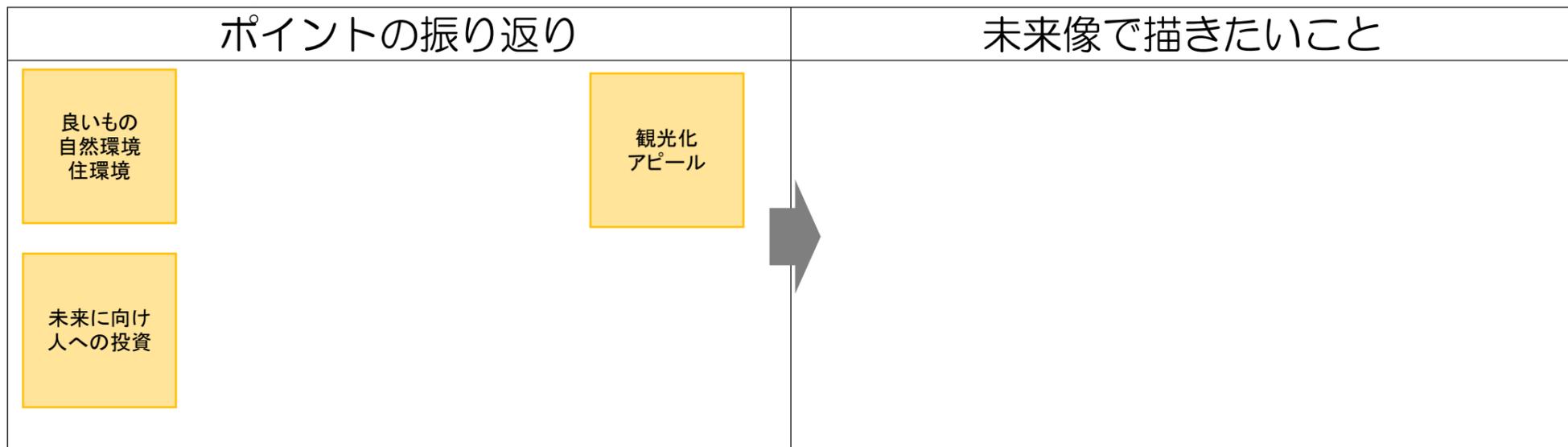
Bグループでは、将来への投資、人生 100 年への備え、茅ヶ崎のインフラ整備を行うということを茅ヶ崎市の未来を考えるポイントとし、「古き良きを残す」ことが茅ヶ崎市の財産・ポテンシャルであるという結論でした。「古き良き」というのは、古いものは本当に古いものだけではなく、昔からある海、山、川を含めた「古き良き」を残すということです。キーワードをいろいろ出したのですが、人の視点では、フレンドリーや人と人との繋がりとこのを重視したいと考えており、まちの視点では、ある程度ICTも活用して、茅ヶ崎の狭い道をそのまま活かして、犬を散歩している人同士が触れ合う、挨拶できるようなまちづくりを重視したいと考えています。なお、未来像のストーリーづくりの模造紙にあるだけでなく、ホワイトボード*にも載せています。

ショートストーリーですが、22 世紀の茅ヶ崎シニアの 1 日を描きました。市の北部に住んでいる男性を想像して下さい。この人が朝起きて、市からICTを活用した情報端末が配られているので、それを見て天気が良いので、シャトルバスで海岸、南の方まで行きます。通常、バスに乗って茅ヶ崎駅まで行って通勤する人は多いのですが、この方はその逆方向で駅から海まで乗っていきます。お昼にはふれあい食堂というまちのホットスポットがありまして、知り合いの女性の方が手料理を作っているので、そこでお昼を食べる。そうやってお金を使うことで人が動くこともあり、知識も循環する。ふれあい食堂までは狭いけれど安全・安心な道となっており、歩いて行くことができます。国道みたいに車の往来が激しい道ではありません。午後は、民家で子どもに知識を教えるような寺子屋のような場所があり、そこではシニアがボランティアではなく有料で教えています。有料なので、与える知識にも責任が伴いますので、自分も勉強しなければいけません。こういった場所で子どもが学べるので、子どもを持つ親が他のまちから茅ヶ崎に引っ越してきますので、市の税収も上がります。さて、夜は快樂食堂という、お酒も出しますが、別のフロアでは勉強もできるような場所があり、そこでシニアは例えばプログラミングを他のシニアから教わることによってスキルをアップすることができます。自分も勉強するというのは先ほど言った話になります。夜寝る時は翌日の茅ヶ崎情報をチェックします。その中には、例えば小出川で桜が咲いているという情報もあったり、彼岸花が咲き始めたなどの話もあったりするので、茅ヶ崎市内での人の交流が促進されます。そのことによって流れ、循環が生まれて、毎日楽しい茅ヶ崎市になります。大人が交流するというと、うろろうしているようにも見られますが、それでも自然なまち、自然体で居られるというのが、茅ヶ崎の未来ではないかというのが、我々Bグループのストーリーになります。

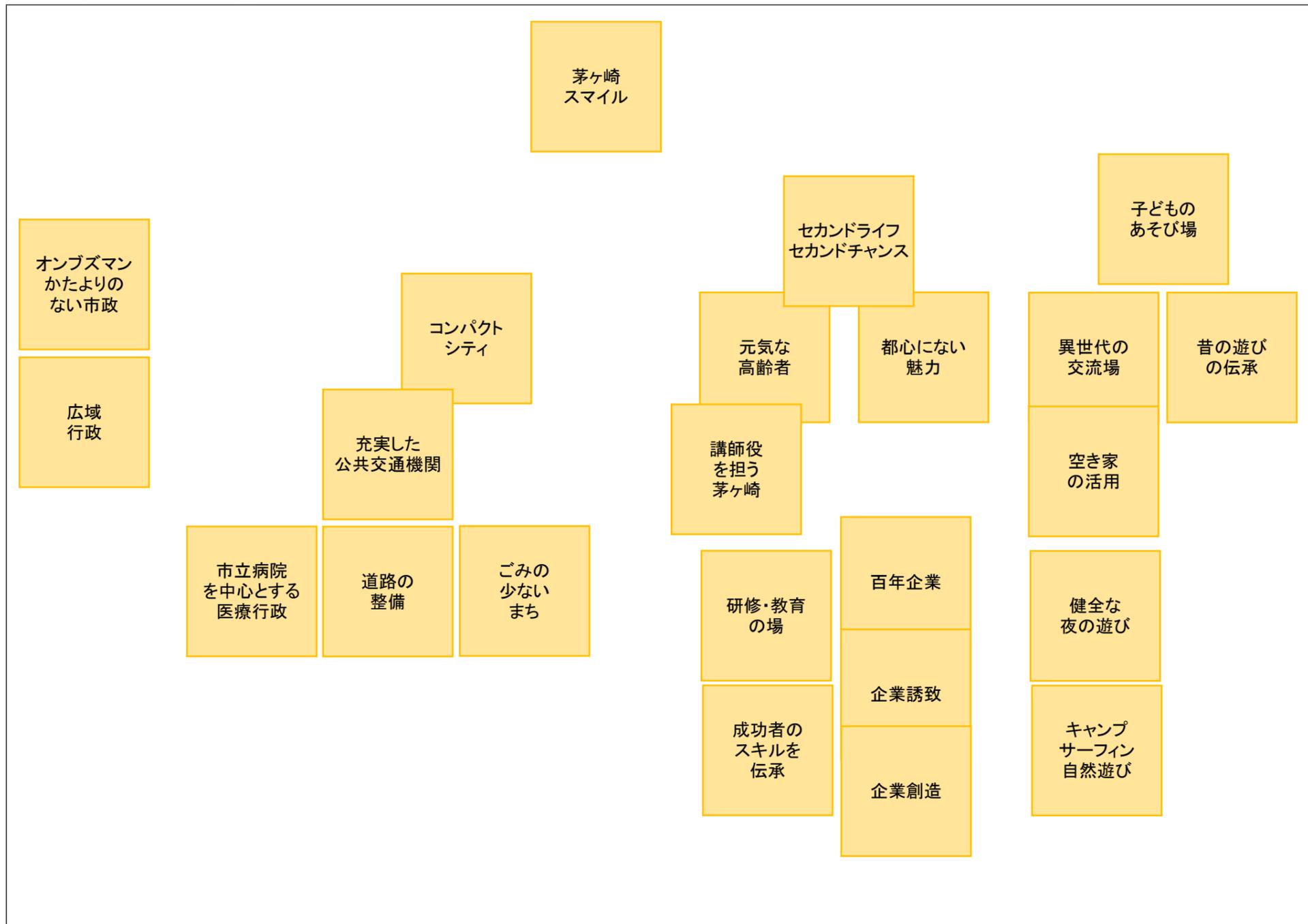
※ホワイトボード結果



未来像のストーリーづくり



未来像のフレーズ出し



未来の茅ヶ崎市での暮らし（ショートストーリー）

・茅ヶ崎には異世代交流できる空間がある。

そこは研修・教育の場で、高齢者は遊び方や教育を若い者へ伝え、働き手の世代では各地から人材が集まり成功スキルの伝承が行われている。

各地から人が集まる理由は、海・山・キャンプ場など自然豊かで、夜の遊び場があるからだ。

多世代が輝ける土壌があるので、まちには「茅ヶ崎スマイル」があふれている。

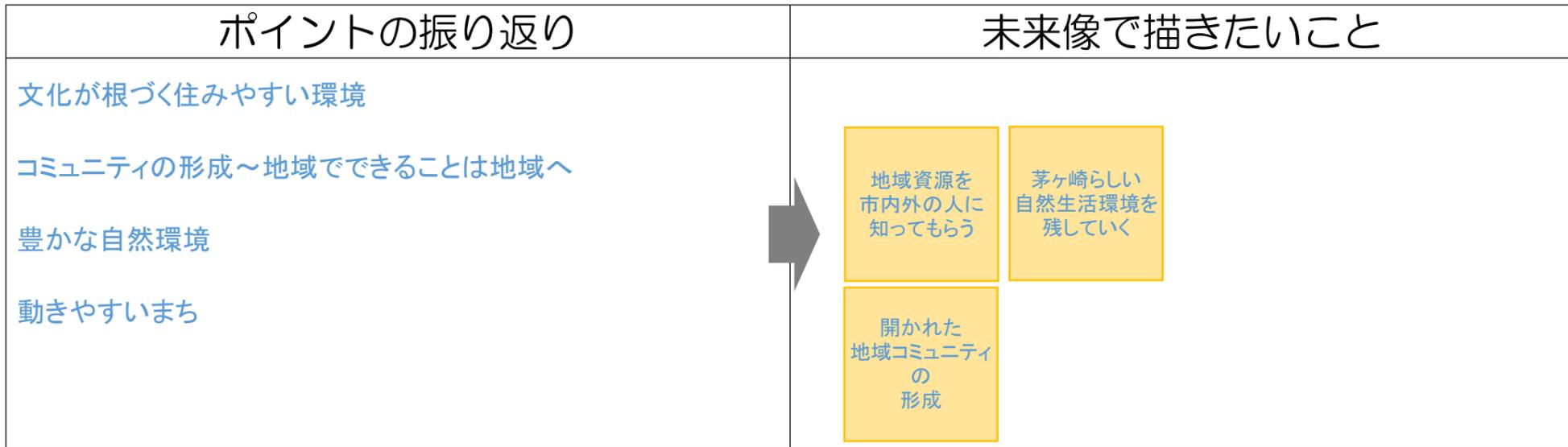
一方、まちのインフラでは道路・交通機関網が整備され、また、ディスプレイ等ごみが少なくなる仕組みが取り入れられ「茅ヶ崎スマイル」を促進している。

フレーズとしては「茅ヶ崎スマイル」という言葉が良い言葉だという意見が出てきたので、それをまず根底に置き、4つのポイントとして、こんなまちになったら良いなということ整理しました。一つ目に「行政が何かに偏った見方ではなく、広域に見て、何に重点を置くかをもう少し見ることができれば良い」という話が出ました。二つ目に「コンパクトシティとして、それを活かしたまちづくりが進んでいると良い」、三つ目に「道路の整備については、人が多いところはほとんど南側に集中しているため、南側の道路の整備や公共機関を充実して、まち全体的に行き来しやすくなると良い」という話が出ました。そして四つ目として、ごみについては、市民の意識もあると思いますが「行政の取組でごみの少ないまちになると良い」という話が出ました。

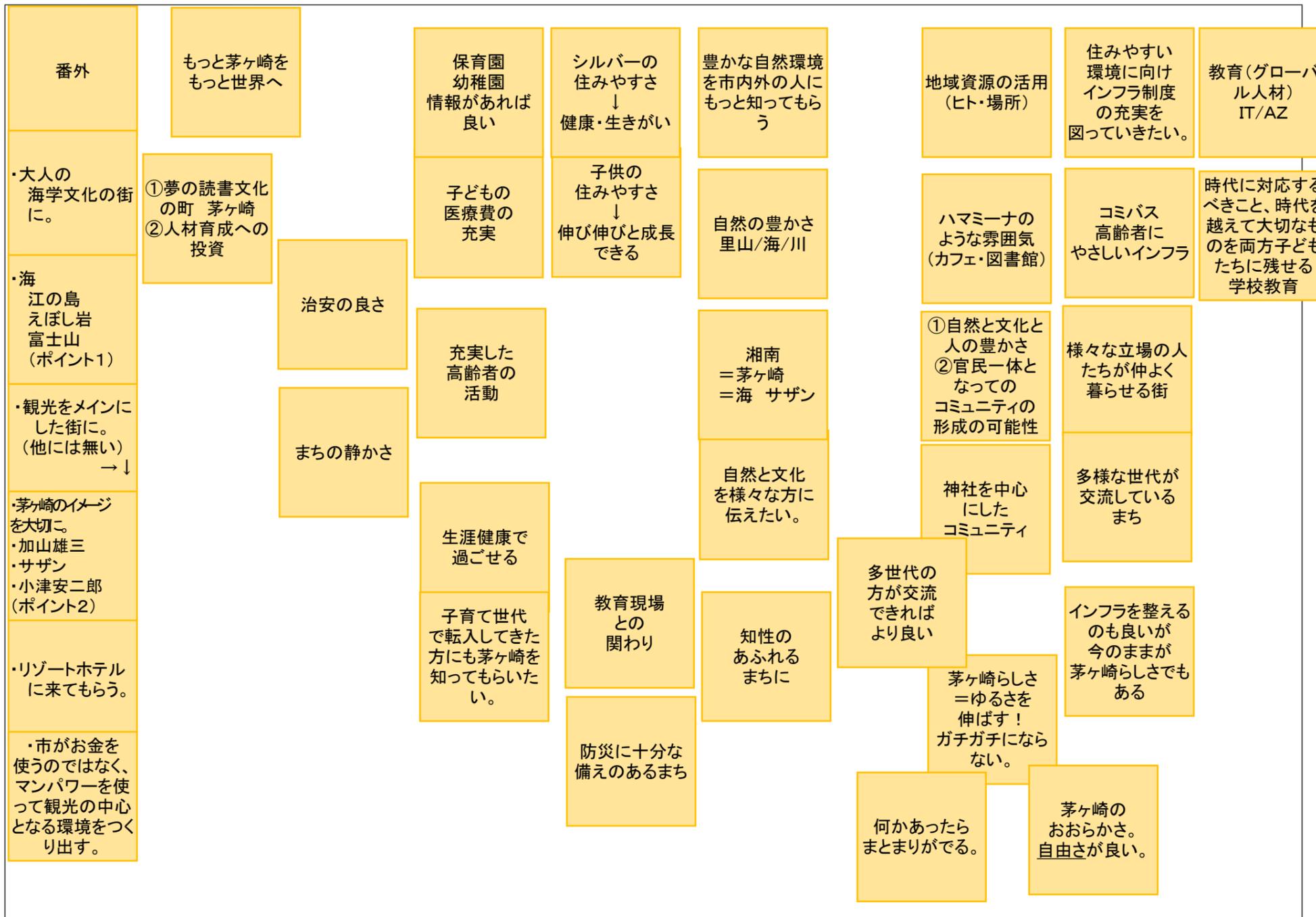
最初に申し上げた「茅ヶ崎スマイル」という言葉なのですが、子どもも高齢者の方も笑顔が溢れるまちになってほしいということから「セカンドライフ・セカンドチャンス」という言葉が出てきました。この「セカンドライフ・セカンドチャンス」を実現するために、二つの場をつくっていくことが重要であると考えます。一つ目の場として、退職されて今まで働いてきた方が、空き家などの場所を使って次の世代に教える場、各地からそういう技術のある方が茅ヶ崎に集まって研修したり教えあったりしてスキルを磨き合えるような場を提供できると良いと思います。そうした結果、百年企業やみんなで考えた企業の創造など、百年続く茅ヶ崎で、地産地消だけでなく人も培い、茅ヶ崎でまた活かしていける場が創造されます。もう一つの場としては、子どもの遊び場です。そこは、今、子どもたちがボール遊びができないとか、習い事で忙しいとか、ゲーム遊びに夢中だとか、少し引きこもりやすい環境にあるので、子どもたちが生き生きと遊べるような空き家や空き地などをそういう場として活用し、そこに大学生のボランティアが活躍して、遊んでもらったり勉強を教えてもらったりする場があると良いと思います。また、地域の主婦や仕事をしていない方、高齢者の方なども見守ってくれる場になったら良いと思いました。

ストーリーとしては、茅ヶ崎に異世代交流できる空間がある。そういった場所で研修、教育の場、高齢者に遊び方や教育を若い方に伝え、働き手の世代では、各地から人材が集まり、成功スキルの伝承が行われている。各地から人が集まる理由は、自然です。そういった自然の魅力で良い人材が集まって輝ける場になれば良いなと思っています。そういった方々が集まった時に夜も遊べる場もあるととっても楽しいのではないかなという意見はありました。茅ヶ崎スマイルが世代を問わず見ることができるまちというのが、Cグループのストーリーです。

未来像のストーリーづくり



未来像のフレーズ出し



未来の茅ヶ崎市での暮らし (ショートストーリー)

私の10年後は75才。今日は海を見ながらcafeで朝食。えぼし岩を写真にとりインスタに投稿。みんな「いいね！」を押してくれる。

これからスポーツジムで身体を調整。健康長寿でいるために運動は欠かせない。

午後は、小・中学生に学習のボランティア。勉強だけでなく、昔遊びや読みきかせもおこなっている。

明日は、茅ヶ崎のまち歩きだ。らちえん通りを中心に文化を感じるツアーだ。そこには、シニアだけでなく子育てママもやってくる。茅ヶ崎のあんなこと、こんなことを話す情報交換の場だ。

最近、茅ヶ崎に住みはじめた人が参加することも多くなってきた。

もうすぐ浜降祭。担ぎ手にならないかと声をかけ、地域の伝統文化を知ってもらい、たくさんの人に参加してもらおうことで、コミュニティを充実させていきたいと思う今日この頃だ。

我々の考える茅ヶ崎のポイントは、やはり、文化が根づく住みやすい環境です。住みやすい環境というのは、高齢者にとってどうなのか、または子どもにとってどうなのか、いろいろあると思うのですが、一つにはコミュニティの形成がされていて、地域でできることは地域でやっているというようなことかなと思います。その背景にあるのは、豊かな自然環境であり、動きやすいまちです。茅ヶ崎の背景にある利点を活かし、それらを踏まえて、文化が根づく住みやすい環境を作っていきたいという想いです。

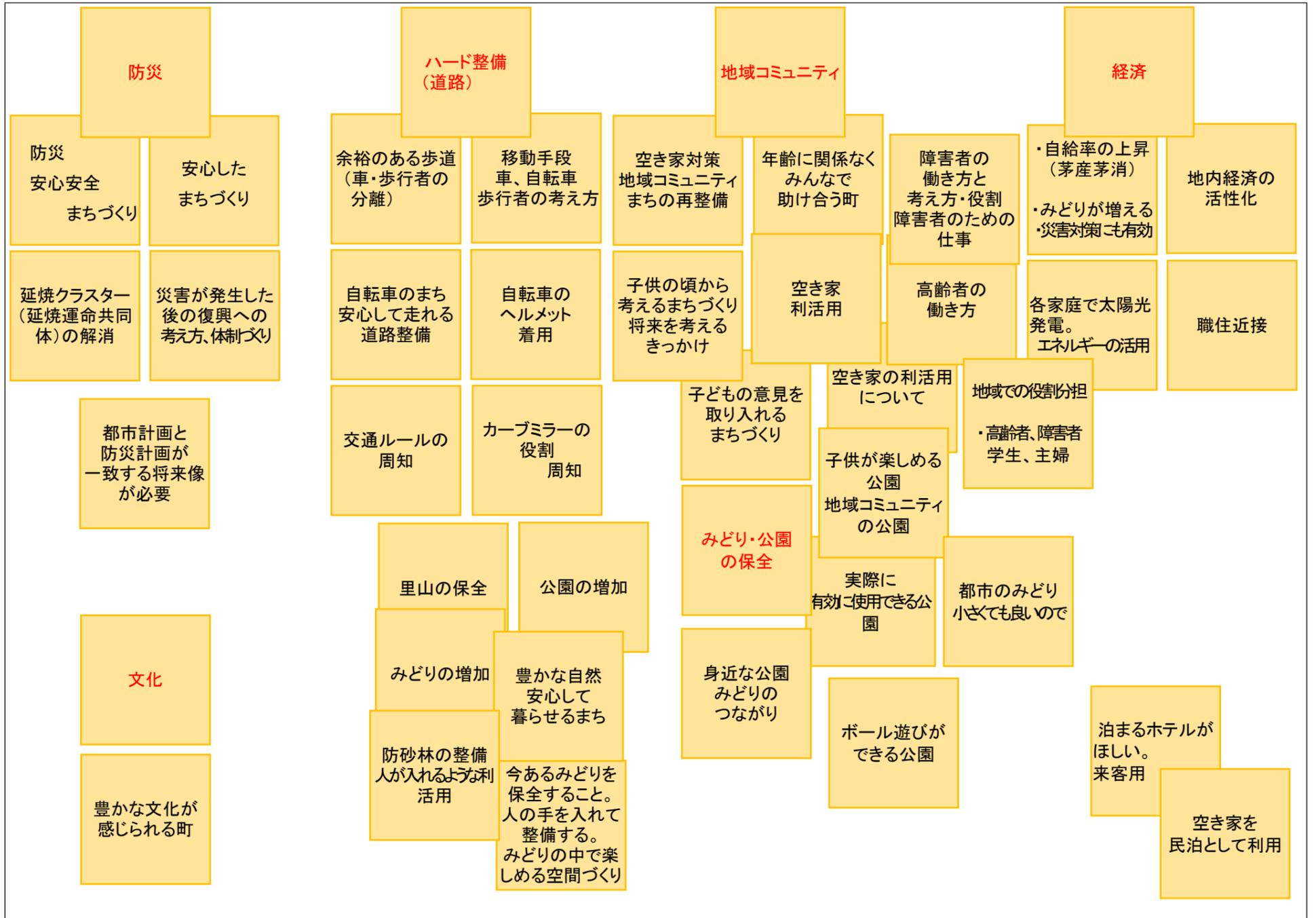
そういう中で、未来のショートストーリーを描いてみたのですが、この時私が10年後にはどうなっているのだろうと考えました。今65歳なので、10年後は75歳になっていますけれども、その時のストーリーを簡単に紹介させていただきます。私の10年後は75才。今日は海を見ながらcafeで朝食。えぼし岩を写真にとりインスタに投稿。みんなに「いいね！」を押してもらっています。これからスポーツジムで身体を調整。茅ヶ崎にはスポーツジムが民間施設として4つ、市の施設としても2つあり、人口の割には6つもスポーツジムがあります。健康長寿であるために運動は欠かせません。午後は、小・中学生に学習のボランティア。75歳まである程度働いたので、75歳以上はボランティア活動に専念するという形です。勉強だけでなく、昔遊びや読みきかせも行っています。明日は、茅ヶ崎のまち歩き。らちえん通りを中心に文化を感じるツアーです。そこには、シニアだけでなく子育てママもやってきて、茅ヶ崎のあんなこと、こんなことを話す情報交換の場になっています。最近、茅ヶ崎に住みはじめた人も多くなってきました。もうすぐ浜降祭。担ぎ手にならないか声をかけ、地域の伝統文化を知ってもらい、たくさんの人に参加してもらうことで、コミュニティを充実させていきたいと思う今日この頃です。こういう10年後で、相変わらず私は健康維持し、いろんな地域との繋がり、コミュニケーションの中で充実した日々を送っています。私の話だけになって申し訳ないのですが、そんなことを読みました。

色々と大切なキーワードがあるのですが、最終的には「茅ヶ崎の自然環境の良さを活かしたい」ということ、また「茅ヶ崎独特のゆるさ」、これは説明するのは非常に難しいのですが、恐らく、自然環境として海が近いとか気候が温暖であるとか、そういうことを背景にして、精神的なゆるさみたいなものが心地良く、茅ヶ崎市の良さであると考えます。そういう茅ヶ崎の良さというのは10年後も活かしていけるようなまちづくりを図ってほしいというのがDグループの希望です。

未来像のストーリーづくり

ポイントの振り返り	未来像で描きたいこと
<p>・財産・ポテンシャル(可能性)は「私たち、市民」です。</p> <p><大切にしたいこと></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安心した暮らし 2. 健康な生活 3. 地域コミュニティの再創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・余裕のある道路が整備されている街 (自動車・自転車・歩行者の分離) ・豊かな自然が確保され、安心して暮らせる街 ・年齢に関係なく、みんなが助け合う街

未来像のフレーズ出し



未来の茅ヶ崎市での暮らし (ショートストーリー)

- ・おじいちゃんは朝早くから、おばあちゃんは近所の空き家に集まる友人達と農業を教えている。
- ・お兄ちゃんは片道2時間通勤の父を見て、茅ヶ崎市を活性化する為、誰でもかつやくできる会社を茅ヶ崎で起業したいと考えている。
- ・お母さんとおばあちゃんは、おじいちゃんの農園で採れた野菜で昼ごはんを作っている。
- ・お姉ちゃんは、安心して整備された道路で自転車通学をしている。
- ・ボクと弟は、近所のみどり豊かな公園で虫捕りをしている。
- ・午後はお母さんが地域のみんなで防災について話をしている。

三世代家族の1日というのを考えました。家族構成としては、主人公は小学6年生の「ボク」です。「ボク」は生まれも育ちも茅ヶ崎で農業をしている祖父母と住んでいて、お父さんは2時間かけて通勤していて、お母さんは在宅で働いています。お兄ちゃんが大学4年生でこれから就活というところで、お姉ちゃんは高校生、弟はこれから幼稚園に通うという家族の1日を考えました。おじいちゃんとおばあちゃんは近所にできた空き家を活用したコミュニティで、集まった人たちに農業を教えています。お兄ちゃんに関しては、片道2時間かけて通勤しているお父さんを見て、そんな生活は嫌だと考えて、茅ヶ崎市内で誰でも活躍できるような何か仕事を創出できるような起業を考えている状態です。お母さんとおばあちゃんは、地産地消として、おじいちゃんが作った野菜を使って自分の家で昼ごはんの準備をしています。お姉ちゃんは、最近きちんと整備された道路があるので、それを使って自転車で通学をしている状態で、ボクに関しては弟と一緒に近所にできた緑豊かな公園で遊んでいます。午後は、お母さんは地域のみんなで防災について市の方の話を聞きに行く、というような1日を送っています。

Eグループでは、ポイントの振り返りで、「安心した暮らし」「健康な生活」「地域コミュニティの再創出」という3つをポイントとして挙げました。それらを踏まえ、ストーリーとして、例えばお姉ちゃんがきちんと整備された道路で通学できるような道路面のハードの整備状況、空き家を活用したコミュニティの状況、空き地をきちんと整備して子どもも安心して遊べるような公園を確保すると同時に緑の保全という側面も実現している状況、お兄ちゃんが地元で働こうとしています、地元でちゃんと都内まで通勤しなくても茅ヶ崎で快適に暮らしながら仕事ができる環境、そして、食料自給率が茅ヶ崎は低いという話もあったので、農業の文化も守りながら生活している姿などを、三世代家族の1日として考えました。